

高温に対する農作物等管理技術対策

令和7年4月30日
埼玉県農林部

4月22日気象庁発表の「向こう3か月の天候の見通し(5~7月)」によると、本年5月~7月は温かい空気に覆われやすく、高温気味に推移すると見込まれます。今後の気象情報に留意し、農作物生育ステージに合わせた適切な管理に努めましょう。

水稻育苗

- 1 は種やほ場準備等の作業計画を見直して適期作業に努める。浸種時は水温上昇による芽の伸び過ぎに注意する。
- 2 育苗時は、換気や被覆資材で温度を調節する。特に育苗初期は床土の温度が30℃を越えないようにする。

麦類

- 1 赤かび病の適期防除に努める。散布した薬剤の収穫前日数に注意して収穫する。

園芸作物共通

- 1 大型ハウスは、遮光カーテンの利用や可能であれば屋根に遮光資材の展張・塗布を行い、日射による温度上昇を抑制する。また、換気扇の利用、側面・妻面開放等により、施設内の通風改善を図る。細霧冷房も併用できれば望ましい。
- 2 雨除けハウス等簡易施設は、寒冷紗や不織布で遮光し、葉焼け等の高温障害を防ぐ。
- 3 かん水は、立地条件や品目、生育状態等を十分考慮し、早朝又は夕方に実施する。
- 4 ハダニ類・アザミウマ類等、高温条件下で発生しやすい病害虫の早期発見に努め、的確な防除を行う。

果樹

- 1 ハダニ類や、シンクイムシ類を始めとする主要害虫の初期発生に注意し、発生を確認した場合は的確な防除を行う。

花植木(切り花)

- 1 朝・夕の気温の低い時間帯に採花し、常温で長時間放置しない。
- 2 エチレンによる劣化を防ぐため、前処理剤を使用し品質の維持に努める。

茶

- 1 一番茶の摘採を予定している茶園では茶芽の硬化が進む可能性があるため、早めに摘採を行う。
- 2 やむを得ず摘採が遅れる場合は、被覆資材で遮光を行うと茶芽の硬化を遅らせることができる。

3 摘採した生葉は高温条件下を避け、直ちに茶工場へ運搬する。茶工場到着後は生葉コンテナ等に移して適切に保管するとともに、できる限り速やかに製造するよう努める。

畜産

- 1 畜舎は屋根・壁面に遮光・遮熱資材を展張するとともに、屋根散水や換気扇を利用し、施設内の温度上昇の抑制及び通風改善を図る。
- 2 畜体への送風や散水・散霧により、家畜の体感温度低下に努める。

※日中等高温時の農作業は避け、作業中はこまかな水分補給と休憩を心がけましょう。

※御不明な点は、最寄りの農林振興センター農業支援部までお問合せください。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

- ・ 農林水産省 農薬登録情報提供システム
<https://pesticide.maff.go.jp/>

◎農作業中の熱中症にご注意ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/keieitai/nousagyounnzen/nettyuusyuu.html>